

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 日明 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

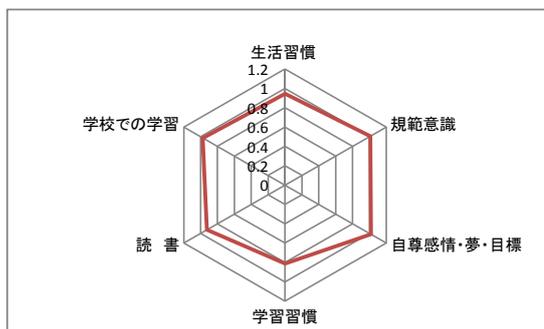
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率を下回っていたが、読むことは基礎ができていた。 言語についての知識・理解・技能が低い。 短答式の問題に対して課題があり、書くことを習慣化する必要がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉える問題は正答率が高い。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名で表記されたものをローマ字で書く、ローマ字を正しく読む問題の正答率が低い。 	
国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 読むこと、話すこと・聞くことともに平均正答率を下回っている。書くことはわずかだが下回っている。 記述式の問題よりも選択式の問題の方が、全国平均正答率を下回っている。全体的に無答率は低い。なんとか表現しようとしている。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉える問題は正答率が高かった。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて、質問したいことを整理する問題。目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む問題。 	
算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を全体的に下回っている。量と測定、数量関係についての課題が大きかった。 平面図形には課題があるが、立体については、正答率は高かった。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 乗数が整数である場合の分数の乗法の計算をし、約分をする問題は正答率が高かった。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 数の大小関係の理解をみる問題や、三角形の底辺と高さの関係についての問題は正答率が低かった。 	
算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を全体的に下回っている。数量関係についての正答率が最も低かった。全体的に無答率は低い。なんとか表現しようとしている。 知識・理解や数学的な考え方よりも、数量や図形についての技能の方が下回っている。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 長方形の厚紙から、正方形を24個切り取ることができるわけを書く問題の正答率が高かった。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 表やグラフから事柄を読み取ったり、読み取れない事柄を特定したりする問題の正答率が低かった。 	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 自尊感情の高い児童の割合は少し減ったが、夢や目標をもつ児童の割合は増えている。どちらも全国平均を上回っている。 学校のきまりを守る、友だちとの約束を守る等の規範意識は非常に高い。 自分で計画を立てて勉強をしたり、予習したり、宿題をしたりといった学習習慣の定着率が低い。 本を進んで読む児童の割合が低い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○学年に応じて体験したことや自分の思いや考えを書く活動を計画的に取り入れる。○全校をあげて読書活動の推進を図る。○課題解決型で、グラフや図表を活用し、ディスカッションを取り入れた授業を展開する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○自学ノートの活用を図り、各担任が児童の学力状況を把握し、授業に生かすようにする。(1日1ページを目安の取組を図る。) ○学年×10分間の家庭学習を定着するようにする。
○学校通信、学年通信、学級通信を通して、家庭学習への啓発を図る。